

きらり通信

Vol.6

神奈川県立子ども自立生活支援センター
 平塚市片岡991-1 TEL.0463-56-0303
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/g2n/>
 編集 広報委員会 印刷 (株)あしがら印刷

地域とつながる

毎週月曜日の朝8時、地元の小中学校に通う子どもたちの元気な声とともに地域とつながる一週間が始まります。通学にはボランティアが付き添ってくださることで、子どもたちは安心して登校し、学校では地域の子どもたちと一緒に勉強します。また、地域の皆様からは、子どもたちに気軽に声をかけていただいたり、敷地内の分校に通っている子どもたちに対しても、これまでほとんど経験したことがない機会を度々提供していただいています。

『皆様に支えられて』

所長 小島 厚

今年、当センターは開設して5年目がスタートしましたが、このように地域の皆様のご支援によって運営を軌道に乗せることができるようになり、大変感謝しております。子どもたちが健やかに成長するためには地域の皆様との関わりが不可欠です。このため、今後も、このきらり通信をはじめ、様々な場を活用して私たちの取組みを積極的に地域の皆様に伝えていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお祈いします。

『駄菓子屋・柿もぎ・大清掃～きらりと光る子どもの笑顔～』

自立支援課 山崎 由恵



きらりの子どもたちが一番好きなのは、『出張・駄菓子屋くろやなぎ』です。月に1回程度、実際の駄菓子屋さんにきらりまで来てもらって子どもたちと交流しています。駄菓子屋は子どもたちの社交場。

昔はそれぞれの地域にあったものですが、現在はほとんど姿を消してしまいました。スーパーでのお買い物と違い、お店の人とのコミュニケーションも魅力的。お小遣いを握りしめ、自分のお財布と相談しながらのお買い物は社会とつながる練習です。

その他、毎月楽しみにしているのは『チョークの日』。思い思いの絵を敷地内の地面に描いています。画用紙などのように枠がなく、友達や職員と会話しながらの時間は心を穏やかにします。1本の線から、皆の想像力が広がって大作や絵しりとり、陣取りなど、豊かな遊びが生まれます。これらについては、是非地域の子どもたちにも体験してもらおう機会を作りたいと考えています。

季節を感じる活動として、金目エコミュージアムの皆さんから招待される『柿もぎ』は楽しみにしている行事です。毎年、隣の柿畑に色づく柿を心待ちにしています。そして、今年度新たに始めた『桜の塩漬け』

はきらりに咲く八重桜を使いました。卒業・入学などのお祝い時にいただきたい一品です。同じく梅の実を収穫しての『梅シロップ』づくりは、子どもたちが自分たちの飲み物として利用できるのも楽しみの一つです。

きらりの外へ出かけてのプログラムは、ふたつ。金目公民館で開催されている学習支援『金目寺子屋』は主に中学生が参加します。もうひとつは土屋幼稚園『ぽっかぽかの会』。幼児が週に一度体験に出かけていますが、普段、きらりではできない体験や活動を幼稚園でたくさんでき、お友達もできるので楽しみにしています。

こうして、たくさんの地域の方々にお世話になっているきらりの子どもたちですが、実は地域の一員として『平塚市まちぐるみ大清掃』に参加してささやかな地域貢献もしています。

子どもが育つために必要な環境は、家庭・学校・地域とされています。これからも、子どもたちに地域とつながることの大切さを実感してもらうため、地域の力を活用させていただくとともに、きらりが地域の一員として愛され、地域の社会資源となる支援を実践します。



感謝の気持ちとポジティブ思考

子ども第二課 矢代 恵



私の担当Aさんは乳児院から施設で生活している高校生の女の子です。

1年半前、担当を告げられた時「どんな子だろう」と会うのを楽しみにしていました。初めて会ったとき「初めましてAです」「よろしく願います」と丁寧に挨拶してくれたのを覚えています。

Aさんと日々過ごして「素敵だな」「見習わなくては」と思うことが沢山あり、学ぶことがとても多いです。そんなAさんから日々学んだことを紹介したいと思います。

Aさんはとてもお礼を言うのが上手です。必要な日用品を購入してきたとき、「矢代さん、〇〇買ってきてくれてありがとうございます」と丁寧にお礼を言います。物を届けた時、高いところにある洗濯物を渡したとき等いろんな場面で必ず「〇〇してくれてありがとうございます。」と言います。この「〇〇してくれて」を聞いたときに私は生活の中で「〇〇してくれて」を付けてお礼を言ったことがあるだろうか。。。と思いました。「ありがとう」は言っても「〇〇してくれてありがとうございます」はなかなか言えないなと思います。「感謝の気持ちを伝えられる人に人が集まる」と聞いたことがあります。Aさんの周りには常に職員やお友達がいてとても賑やかです。「ありがとう」をたくさん言うAさんですが、フロア内のお友達の中でもAさんの真似をして「ありがとう」が増えたように感じ、とても幸せな気持ちにさせてくれます。

また、「人を褒める、さ、し、す、せ、そ」と言いますがAさんは「さすがですね」「上手ですね」「すごいですね」と頻繁に使います。「さすがが私の担当！」なんて言われると自然と色んなことが頑張れます。お友達を褒めるときも「さすが〇〇さん！」と言い、それを聞いたお友達は両手を挙げて喜んでいきます。とても人を気分よくさせるのが上手です。

そんなAさんは日ごろとてもポジティブで優しいです。お友達が不調でAさんを追いかけてもお友達を責めることなく「逃げたのはGOODですね！」と逃げ切った自分を褒めます。「ごめんね」と謝られたら「いいよ」と責めることなくすぐに許してくれます。何か嫌なことがあったり、失敗しても「過ぎたことは水に流しましょう。また明日頑張ればいいですね」「まだチャンスはあ

ります」と言い、その発言を聞いて私自身が励まされているように感じます。

お友達からバカと言われたら「バカ、死ね、あっちいけ、こっちくるなはチクチク言葉っついてうんです。学校の先生がチクチク言葉は言っちゃいけませんと言っていたから私は言われても我慢しているんです」とここでもお友達を責めません。Aさんの発言を聞いていると、過去に関わった職員さんがAさんにかけて言葉なのかなと思い改めて言葉の力はすごいと思います。

Aさんも親族やボランティアさんと年に数回外泊や外出をします。私が「お泊りした後、きらりに戻って〇〇さんとさようならするとき寂しくない？」と質問しました。すると「寂しくないよ。だってここ（きらり）楽しいもん」と一言。この発言を聞いて少しウルッと目頭が熱くなりました。お風呂に入った後は「あ～さっぱりした！」といったも気持ちよさそうに言います。食事の時は「うん！これおいしい！」ととても幸せそうです。毎日小さな幸せを感じているAさんはとても素敵だなと見習います。

家庭ではなく施設という環境で、何ができるのか考える毎日です。Aさんと接してきて感謝の気持ちやポジティブな思考は人を幸せにして伝染すると学びました。きらりの子ども達もいずれきらりを卒業します。その時「きらりの生活楽しかったな」「職員さんとこんな会話したな」「こんなこと言われたな」と思い出してもらえるよう日々感謝の気持ちを伝えながら向き合っていきたいと思います。



～彩る・備える～

新しい生活様式の取り組み

／きらりの巣ごもり自慢／



管理課

栄養士

～行事食の彩り～

出かける機会が減ったコロナ禍で、フロアで楽しめる食育を行えないか？と考え、毎年恒例、こどもの日の行事食“このぼりオムライス”を、今年は子どもたちが自分で描けるようにしてみました。オムライスのキャンバスにケチャップで描かれた鯉のぼりは名作ぞろい！

みんな楽しんでくれたみたいです♡



子ども第一課

みらい

(乳児院)

“みらい”の子どもたちは、同じ室内で生活をする時間が長く、距離も近いので、一人が風邪を引くと、すぐに他の子にうつってしまいます。そのため、乳児院内に病原体を持ち込まない水際対策が肝心です。親子の面会は別棟で行い、お昼ごはんを外食する際は、店内で食べずにテラスや公園のベンチで青空の下、そよ風を感じながら食べています。また、近所の公園に行く途中のアジサイを鑑賞し、道行くバスやトラックを見て喜んだり、大人では見過ごすようなことでも発見して楽しんでます。



子ども第三課

ひばり

(障害児入所施設)

普段の散歩もなかなか行けない日が続きましたが、「その時にできること」を見つけて、ドライブに出かけたり、テイクアウトの食事を楽しんだりしました。3階のお年頃の女の子は、大好きなおしゃれを学校が休みの日に楽しんでいます。マニキュアや化粧を「キラキラしたのが良い～」

「赤い口紅が、可愛いよ。」など子ども、職員共に楽しんでいます。



子ども第三課

ぎんが

(児童心理治療施設)

県の児童施設が集まるスポーツ大会がこの1年間次々と中止となったため、園内での卓球大会・水泳大会・きらり駅伝など子どもたちが活躍できる場・取り組める場を作りました。元旦には園内に即席で神社を手作りし、初詣気分を味わいました。また、外出がなかなかできないので、フロアでのおやつ作りや屋外での歌合戦、プロジェクターを使った映画鑑賞会などを園内で楽しめる余暇として提供し、子どもと大人が一緒になって楽しみました。



みんなを守る

医務課

コロナ対策で一番大切なことは、「持ち込まない」「拡げない」ことです。手指消毒、来所者の入所制限、会議室使用後の掃除、共有スペースなどの掃除をしっかり行っています。手指アルコール消毒液を玄関、各フロア入口に設置。使用量を見える化して子ども大人もしっかり消毒すること意識しました。

手洗いチェッカーを用いて職員と子どもたちに手洗いチェックを実施し、手洗いの重要性を確認しました。子どもたちは汚れが光って見えることに興味を示し、適切な手洗いができているかの意識付けができたように思います。



きらりリレートーク

自立支援課 細野 泰代

私は昨年4月からきらりで働いています。私がきらりに来た頃は、新型コロナウイルスの感染が拡大し始め、初めての緊急事態宣言が発令される時期でした。当時は世の中が今よりもっと手探りで感染防止に取り組んでいて、大勢が集まる着任式のような行事はできず、子どもたちにきちんとご挨拶する機会がないままきらりでの生活がスタートしました。最初のうちは話しかけた子どもに「この人誰だろう？」という顔をさせてしまっていたことを思い出します。一年以上が過ぎた今は、少しは驚かせてしまうことは減りましたが、それでもまだまだお話したことがない子がたくさんいて、仲良くなれるチャンスを探しています。

きらりではさまざまな子どもたちが生活していて、「みんな本当にがんばっているな」と感じます。時にはうまくいかないことがあっても、自分の気持ちを伝えたり整理したりしようとする姿はいじらしく、どの子どもも無条件に大切にしたいくなります。日々成長していく姿は、衰えを感じることも多くなってきたような気がする私にとっては、とても眩しい存在でもあります。

自分の子ども時代を思い出すと、一日を今より貴重に感じていたように思います。そんな時期を生きる子どもたちと時間を共有させてもらえることはありがたく、私にできることを一生懸命見つけていきたいと思っています。みんなコロナに負けないよう、一緒にがんばろうね。



サッカー部の活動

女子も男子も皆でサッカー！

子ども第三課 大原 知嗣

昨年秋から冬にかけて小学生を対象に発足したサッカー部。予想よりたくさん子どもたちが集まりました。男の子だけでなく、女の子や別の棟で生活する子も参加し、1～6年生のサッカーに興味がある子たちが集まりました。一番の目標は「楽しむ」事。ですが部活という事もあり、事前に全体でのルール説明や個別で意思確認を行いました。始まる前から「いつ始まるの？」「早く早く！」と皆やる気満々！

コロナ対策でマスクをしながらの活動でしたが、パスやドリブル練習も皆夢中になっていました。

初めは控えめだった低学年の子も回を重ねるごとに積極的にドリブルする姿も。高学年チームでは女の子が男の子に声を掛けながら、果敢にゴールをねらい、素晴らしい活躍ぶりでした。

最終日には先生や職員の大人チーム対サッカー部児童全員で戦いました。女の子や小1の子のシュートが決まり、大盛り上がり。子どもたちの懸命な姿を沢山見る事ができたサッカー部でした。



ボランティア募集



行事等のお手伝いや、学習補助、衣類の補修等のボランティア活動をしていただける方を募集しています。特に地域の学校へ通っている子どもたちの通学に付き添っていただける方を探しております。資格や経験は問いません。ご興味のある方はお気軽に下記までご連絡ください。

研修案内

子どもの発達や、発達障害、愛着の問題など、「きらり」が支援する子どもに関するテーマについて、公開研修を企画開催しています。最新情報や内容・日程については、当センターホームページ内「子ども自立生活支援センター公開専門研修計画」を、ご参照ください。

施設開放

地域におけるコミュニティ作りや文化活動に貢献できるよう、当センターの体育館などの貸し出しを検討しています。ご利用を希望される方は、施設開放事業担当者まで、お問い合わせください。



ご寄付やボランティアのご協力、ありがとうございます。子どもたちはとても喜んでます！



問合せ先： 0463-56-0314

当センター自立支援課（平日8:30～17:15）

または、ホームページの「お問い合わせフォーム」よりお問い合わせください。

※感染症防止のため一部サービスを停止している場合があります。



ともに生きる社会
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society